

題材名「穴から広がる物語」…〈絵〉

小学校第3学年及び第4学年

【題材の目標】

- ・色や形を工夫して、穴から始まる二つの世界を想像したり、穴の中と外の世界とを対比させたりしながら、かく喜びを味わおうとしている。【造形への関心・意欲・態度】
- ・穴から広がる物語を思い付いたり、2枚の絵にかく場面を考えたりしている。
【発想や構想の能力】
- ・二つの世界の対比を生かして、穴の形や位置、大きさ、彩色などを工夫している。
【創造的な技能】
- ・自分や友達の作品について話し合い、物語の表し方のよさや面白さを感じ取っている。
【鑑賞の能力】

【題材の価値】

【子どもの実態(例)】

- ・この時期の児童は、興味や関心を持つ対象が広がる。一方、夢や願いをかいたり、冒険心に富んだ表現を試みたりするなど、想像力を働かせることを一層楽しむ姿もある。友達の発想を意図的に取り入れたり、教え合ったりしながら表し方を工夫する場面が見られるようになる。

【主題(例)】

- ・穴の中から外を見るマクロ的な見方も、穴の外から中をのぞき込むミクロ的な見方もどちらも大切にして、子どもたちが伸びやかに発想できるようにしたい。同時に、穴の大きさ・形・位置などを工夫したり、広がる二つの世界を対比的に考えたりすることにより、その子らしい楽しい空想の世界を伸びやかに表現することができるようにしたい。穴の中と外の世界のモチーフや彩色の工夫、さらに、穴の形や開き方の工夫など、一人一人が表そうとしている形や色から主題を読み解き、価値付けていきたい。

【材料や用具(例)】

- ・材料や用具については、画用紙を用い、描画材料としては、馴染みの深いクレヨンや水彩絵の具を扱う。水彩絵の具については、パレットやバケツの使い方、置き方、片付け方などを繰り返し指導する。また、混色についての指導をし、2色を混ぜてつくった色を塗る楽しさを経験することができるようにしたい。さらに、クレヨンの上から水彩絵の具を塗ることにより表れる、はじく面白さも味わえるようにしたい。

【発想や構想の能力、創造的な技能、鑑賞の能力などの価値(例)】

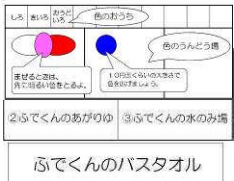
- ・簡略化した穴の開き方を示す試作を見せることにより、子どもたちの発想が広がりやすくなるようにしたい。水彩絵の具の混色を楽しんだり、穴を様々な形や大きさに切り抜いたりする活動を通して創造的な技能の力を高めたい。また、穴から広がるストーリーを伝えたり、友だちのストーリーを聞いたりして楽しむことによって鑑賞の力を高めたい。

【「指導計画の作成と内容の取扱い」との関連】

第3学年及び第4学年においては、木切れ、板材、釘、水彩絵の具、小刀、使いやすいのこぎり、金づちなどを用いることとし、児童がこれらを適切に扱うことができるようにすること。

(小学校学習指導要領解説 図画工作編 P63～64より)

【板書例】

学 習 課 題 等	
時間のめやす	※ 子どもの主題や主題を表す工夫をメインに板書していく。
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"><p>バレットの使い方</p></div>	
子どもの生の発言を板書する。	
※ 穴の外や中へ広がる物語について など	

【準備物の例】

- 一人につき画用紙2枚 はさみ のり セロハンテープ クレヨン 新聞紙
- 油性ペン 水彩絵の具 カッターナイフ カッターマット など

「静岡県ならではの」を生かした内容

【地域の穴を利用して発想を広げる】

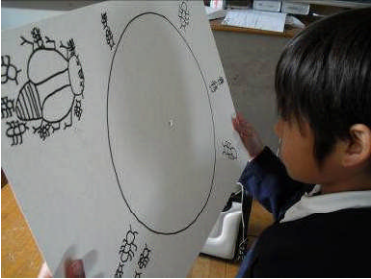
静岡県は、豊かな自然に恵まれている。古い神社やお寺などの境内には樹齢を重ねた木が多くある。こうした木々の洞（ほら）からストーリーを考えることも発想が膨らんでいくであろう。

また、風穴・氷穴・鍾乳洞（しょうにゅうどう）・動物の巣穴のような地域の自然などを生かして子どもたちの発想の手掛かりにすることも考えられる。

【地域の昔話を利用して発想を広げる】

静岡県の各地には、たくさんの昔話が伝わっている。池の底の穴が遠くまでつながっている伝説や大きなへこんだ穴ができた伝説など、たくさんの興味深い話と題材を結び付けて、子どもたちの発想の手掛かりにすることも考えられる。

【授業の具体例】 6時間扱い

学習活動	時	評価規準	○支援や留意点等
<ul style="list-style-type: none"> ・穴の中と外の世界への思いを膨らめる。 ・穴の開け方の効果や穴の外と中へ広がる二つの世界の試作を見ながら具体的にイメージする。 ・はさみやカッターナイフを使って穴を開ける。 ・穴の中へ広がる世界や穴の外へ広がる世界をかき始める。 	2	<p>【造形への関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・穴から始まる二つの世界を想像したり，穴の中と外の世界とを対比させたりしながら，かく喜びを味わおうとしている。 <p>【発想や構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・穴から広がる物語を思い付いたり，2枚の絵にかく場面を考えたりしている。 	<p>○子どもたちが，穴から始まる二つの世界に興味を持つような話をしたり，個々の発想が広がるような単純な試作を見せたりしながら導入をする。</p> <p>○穴から広がるストーリーを発想することに戸惑っている子どもに対しては，穴の様々な大きさや形を具体的に見せたりつくったりすることを通して，発想が広がるようにする。</p> <p>○カッターとカッターマットを用いることができるようにするとともに安全面について指導する。</p> <p>○何をかくだけでなく，「どのような」というイメージを考えることにより，一人一人のかきたいものを生み出していく。</p> <p>○油性ペンやクレヨンでのびのびと線描するよう声を掛ける。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・混色の仕方について学ぶ。 ・穴の中へ広がる世界や穴の外の世界を絵にかき，水彩絵の具で色を塗る。 	3.5	<p>【造形への関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・穴の意外性や穴の中へ広がる世界と穴の外の世界の対比を生かしながら，意欲的に工夫をしていく。 	<p>○絵の具や水の量が調節できずに困っている子には，手本を示すなどして教える。</p> <p>○思い通りの色がつくれない子には，少しずつ絵の具を混ぜるよう指導する。</p> <p>○クレヨンで彩色している子には，その上から水彩絵の具をのせるとはじく（バチック）効果になることを適宜伝える。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・ 2枚の画用紙を組み合わせて作品にしていく。 		<p>【創造的な技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 二つの世界の対比を生かして、穴の形や位置、大きさ、彩色や構図の効果を考えながら工夫をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○色を重ねたり、混ぜたり、にじませたり、ぼかしたりするなどの塗り方の工夫を価値付ける。 ○彩色する面の広さに合わせて筆を選べるよう適宜指導する。 ○一人一人の穴の開け方の工夫やこだわり、ストーリーを表現する工夫を見取り適宜価値付けていく。 ○穴を開けてつくった画用紙と、もう1枚の画用紙を効果的に貼り合わせることができるように支援する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 互いの作品を小グループの話し合いにより、鑑賞し合う。 	0.5	<p>【鑑賞の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分や友達の作品について話し合い、物語の表し方のよさや面白さを感じ取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○穴から広がる二つの世界の不思議さが表れるような題名を付けるように指導する。 ○穴を開け閉めしながら、小グループで作品のストーリーや、工夫したところを紹介し、気付いたことや感じたことを伝え合う場を設ける。 ○穴の開け閉めができる高さに展示するとともに、作品が壊れないように鑑賞するよう指導する。

題材名「つなげて広げて教室大変身」…〈段ボール造形遊び〉
小学校第3学年及び第4学年

【題材の目標】

- ・段ボールが持つ素材の可能性や場所との関連性に関心を持ち、自分の思いでつくりだす喜びを味わおうとする。 【造形への関心・意欲・態度】
- ・段ボールをつなげながら面白い形を思い付いたり、その形を置く場所を考えたりしている。 【発想や構想の能力】
- ・段ボールの特性や段ボールカッターなどの用具の特徴を生かして、組み合わせたり、切っつけてつなげたり、形を変えたりするなどの工夫をしている。 【創造的な技能】
- ・自分や友だちの活動について話し合いながら、段ボールをつなぐ方法や形の面白さを感じ取っている。 【鑑賞の能力】

【題材の価値】

【造形遊びの価値(例)】

- ・造形遊びが作品づくりにならないように配慮し、子どもたちの、様々なアイデアの変化と活動の変化を評価し、つくりだす喜びを味わえるようにしていきたい。第5学年及び第6学年へのつながりや中学校の美術科及び技術・家庭科の技術分野とのつながりも踏まえ、領域を越えた資質や能力も育みたい。

【子どもの実態と材料の経験(例)】

- ・木ぎれを使った造形遊びを行ったので、同じ学年では別の材料と場所の経験をさせたいということと、低学年の時に扱った段ボールをさらに深めて経験する場を設けたいため、段ボールを選択した。指導に当たっては、材料と場所を分けて捉えず、子どもの発想が広がるようにしたい。

【子どもの実態と場所の経験(例)】

- ・机、椅子、壁、棚などの特徴から発想を広めていくようにしたいことと、安全面や使用条件に配慮することなどを考え、多目的室を活動場所として設定した。

【材料の価値(例)】

- ・段ボールという素材は軽いですが、組み合わせや方向によっては、とても強固な素材である。また、段ボールをはがしたり、はがしたものを使ったりすることにより様々なテクスチャーが表現できる。さらに、素材そのものが持つ温かな風合いがあるという魅力的な面がある。段ボールという身近な素材の可能性を様々なことに知り、つくりだす喜びを強く感じていけることが本題材の魅力であると考えます。

【発想や構想の能力、創造的な技能、鑑賞の能力などの価値(例)】

- ・話し合ったり考えたりする必要感を高めたいということや、「組み合わせる・切っつけてつなぐ・形を変えてつくる」などの工夫を生み出したいという願いから、接着剤を使わずに、切り込みを入れて組み立てたりつなげたりする活動を行いたい。

【「指導計画の作成と内容の取扱い」との関連】

第3学年及び第4学年においては、木切れ、板材、釘、水彩絵の具、小刀、使いやすいのこぎり、金づちなどを用いることとし、児童がこれらを適切に扱うことができるようにすること。


(小学校学習指導要領解説 図画工作編 P63～64より)

【板書例】

学習課題等	
準備	時間のめやす
<ul style="list-style-type: none"> 安全面の配慮 段ボールカッターの使い方 	<ul style="list-style-type: none"> 切り込みが上手につくれない。 段ボールがしっかりくっつかない。 高く積み上げたい。 ゆらゆらする。

こんなつなぎ方をしていたよ。

工夫したつなぎ方の例を写真などで紹介する。



【準備物の例】

- 段ボール 段ボールカッター カッターナイフ カッターマット はさみ
- 紙ひも ビニール袋 など

「静岡県ならではの」を生かした内容

【段ボール工場との連携】

静岡県内には段ボール工場が多くある。また、ものづくりが盛んであるため、梱包（こんぼう）のための段ボールをつくる工場も多い。

子どもたち自身が段ボールを集めることも大切な学習となるが、家庭や地域の協力により特徴的な形や大きな形の材料を手に入れることが可能となる。ただし、善意での提供であることに十分配慮して、協力を仰ぐことが大切である。また、提供してもらいばかりの一方通行の関係にならないよう、事後のお礼など双方向の関係を築くようにしたい。

利用した段ボールのリサイクルやリユースにも心掛け、段ボールが無駄にならないようにすることも大切である。子どもたちが段ボール工場内に立ち入ることは危険を伴うため、安全面にも配慮したい。

【授業の具体例】 5時間扱い

学習活動	時	評価規準	○支援や留意点等
<ul style="list-style-type: none"> ・安全面の約束を確認したり活動の見通し持ったりする。 ・段ボールをつなぎたい場所を見付ける。 ・段ボールのつなぎ方を考える。 	2	<p>【造形への関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段ボールをつなぎながら教室を変身させることに関心を持ち、自分の思いでつくりだす喜びを味わおうとしている。 	<p>○各家庭に事前に知らせて段ボールを集めておく。また、学校でも、段ボールを用意し、子どもたちの発想が広がるように準備しておく。</p> <p>○段ボールのつなぎ方に興味を持てなかったり、つなぎたい場所が見付けられなかったりする子どもには、他の子どもの活動の様子を紹介したり、共につくったりするなどして興味を高めるように支援する。</p> <p>○カッターナイフは、学校でストッパー付きの安全なものを用意し、普段持ち歩かないように指導する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・今日の活動について確認する。 ・自分なりに考えたり、互いの活動の様子を参考にしたりして、つなぎ方を工夫していく。 <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;">   </div>	1	<p>【発想や構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段ボールをつなぎながら面白い形を思い付いたり、その形から考えたりしている。 <p>【創造的な技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段ボールの特性や段ボールカッターなどの材料や用具の特徴を生かし、工夫してつくる。 	<p>○活動が変わっていてもよいことを確認する。</p> <p>○互いの方法を紹介し合って、友達との交流が自由に行えるようにする。</p> <p>○友達に活動に目を向けてよりよい工夫を見付けるようにしたり、工夫しているところを価値付けたりすることにより発想を広げられるようにする。</p> <p>○活動に戸惑いを感じている子どもには、他の子どもの工夫を紹介したり、特殊な形状の段ボールを与えたりして、発想が広がるように支援する。</p> <p>○夢中になるあまり、刃物の使い方や置き方が乱雑にならないように指導をする。</p>

			○活動の様子を適宜，写真やビデオ等に収めておき，作品の変化の様子も事後に鑑賞できるようにしておく。
・活動場所全体に意識を広げて自慢の場所に大変身させることを楽しむ。	1.5	【創造的な技能】 ・段ボールの特性を生かして，組み合わせたり，切ってつなげたり，形を変えたりするなどの工夫をしている。 【造形への関心・意欲・態度】 ・段ボールを使った造形遊びに興味を持ち，自分のこだわりのある場所で楽しくつくろうとしている。	○効果的に取り組めるよう振り返りのワークシートはキーワードを示してあるものを用意する。 ○製作過程における，個々の子どもの意欲，工夫，創造的な技能等を子どもの考えに身をよせて捉え，適宜声を掛けていく。 ○活動に戸惑いを持っている子どもに対しては，その理由を聞き，必要に応じて，友達との関わりを促したり，アドバイスをしたりする。また，意欲的に活動している子どもに対しては，タイミングよく認め，周りの子どもたちにも意欲が波及するようにする。
・自分の活動のこだわった点や工夫した点などを話し合う。	0.5	【鑑賞の能力】 ・自分や友達の活動について話し合いながら，段ボールをつなぐ方法や形の面白さを感じ取っている。	○鑑賞の視点（つなぎ方，段ボールの特徴を生かした使い方，場所の生かし方など）を子どもたちが具体的に持てるように指導する。 ○保護者には，造形遊びのねらいや活動した子どもの学びの足跡を伝え，造形遊びの意義を知らせる機会とする。

題材名「木と釘から生まれたよ、不思議な国の動物たち」
…〈釘打ち工作〉 **小学校第3学年及び第4学年**

【題材の目標】

- ・ 流木や板材などで見立てた不思議な国の動物を表すことに関心を持ち、木材を加工して形をつくることを楽しもうとしている。 **【造形への関心・意欲・態度】**
- ・ 流木や板材の組合せから表したいことを思い付いたり、釘の打ち方や並べ方などを考えたりしている。 **【発想や構想の能力】**
- ・ 自分が表したいことに合わせて、のこぎりや金づちを使い、木材の組合せや釘の打ち方などを工夫している。 **【創造的な技能】**
- ・ 自分や友だちの作品について話し合うことを通して、木材や釘の組み合わせ方や表し方の面白さを感じ取っている。 **【鑑賞の能力】**

【題材の価値】

【子どもの実態(例)】

- ・ 小学校中学年の児童は、興味・関心の対象が広がるとともに、ある程度対象を客観的に捉えられるようになる。一方、冒険心に富んだ表現を試みたりするなど、想像力を働かせることを一層楽しむ姿もある。扱う材料や用具の種類は増え、自分の表したいことに合わせて材料や用具を使うことができるようになる。友人の発想を意図的に取り入れたり、教え合ったりしながら表し方を工夫する場面が見られるようになる。

【つくりたいもの(例)】

- ・ 「海を渡って流れ着いた木と釘から不思議な国の動物たちが生まれたよ。」と投げ掛けることで、自分のイメージを基に、表したいことを見付けて表現することができるようにしたい。「海を渡って流れ着いた」から、未知の物への興味を膨らめ、「木と釘から生まれた」ということから材料をイメージし、「不思議な国」ということから子どもたちが思いを膨らめていくことができるように配慮した。

【木材、釘の価値(例)】

- ・ 木材は、のこぎりで切った木片の形・流木の形などから発想が広がる材料である。また、木材は、釘打ちにより接合することができる材料であり、可動する部分が生まれることもある。さらに、釘自体の並び方が模様やとげなどの部品に見えてくるという面白さがある。子どもたちは、はじめのうちは釘を思うように打てずに曲げてしまったり、途中で釘を抜かねばならなかったりすることも予想されるが、このような経験を体験させることにより、用具に十分慣れさせていくようにしたい。

【発想や構想の能力、創造的な技能、鑑賞の能力などの価値(例)】


- ・ 木材の組み合わせや釘打ちで試すようにいろいろな形をつくりながら楽しみ、周りの友人と関わり合いながら、自分の思いをはっきりさせたり、作りつつある形から、児童の発想や構想の能力、創造的な技能などを発揮したりできるよう配慮したい。また、金づちや使いやすいのこぎりなどの用具の特性を捉え、使い方に慣れるとともに、安全な使い方にも気を付けながら、適切に扱えるようにしたい。

【「指導計画の作成と内容の取扱い」との関連】

第3学年及び第4学年においては、木切れ、板材、釘、水彩絵の具、小刀、使いやすいのこぎり、金づちなどを用いることとし、児童がこれらを適切に扱うことができるようにすること。

(小学校学習指導要領解説 図画工作編 P63～64より)

【板書例】

学 習 課 題 等		
準 備	時間のめやす	
<ul style="list-style-type: none"> ・安全面の配慮 ・金づちの使い方 ・釘のぬき方 	<p>子どもの生の発言を板書する。</p> <p>※キーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなふうに ・何をしている 	

【準備物の例】

- ・流木 板材 木切れ
- ・釘 金づち のこぎり 釘抜き ボンド 雑巾やタオル など


発展的な学習の内容例

【鑑賞の工夫…屋外の鑑賞 ビデオやカメラの活用】

「不思議な国の動物たち」にふさわしい場所を校庭で探してデジタルカメラで撮影をする。作品を木の枝に留める、池の水面に映り込ませる、芝生の上に置くなど子どもたちが作品の主題を効果的に工夫するよう配慮したい。また、その場所を選んだ理由などを作品の主題と併せて友達同士で伝え合う場を設ける。屋外での活動においては、事前の点検などをして、安全確認に努めるようにしたい。

子どもたちが主体的に撮影できるように、デジタルカメラの操作方法を教える。少しずつ動きを変えてコマ送り撮影をしたり、ビデオで動画として撮影したりすることにより、動物たちが生きているかのように映像化し、互いに鑑賞するなどすることも考えられる。

【授業の具体例】 4時間扱い

学習活動	時	評価規準	○支援や留意点等
<p>・のこぎりや釘打ちの基礎を学びながら，用具に慣れる。</p> <p>・木材の形や組み合わせにより自分の表したい形を見付ける。</p> 	1	<p>【造形への関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流木や板材などで不思議な国の動物を表すことに関心を持ち，板材の加工や釘打ちを楽しもうとしている。 <p>【発想・構想の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流木や板材の組合せや釘の並び方などから，表したいことを思い付いている。 	<p>○木材の切断や接合の方法や注意することを，手本を示しながら分かりやすく伝える。板書や掲示物で材料や用具の扱い方や安全面の約束を示し，子どもたちが適宜振り返ることができるようにする。</p> <p>○曲がった釘を入れる容器，使えそうな端材を入れるコンテナなどを用意し，安全かつ，材料を無駄にしない環境設定に努める。</p> <p>○のこぎりや金づちに十分に慣れさせながら，基本的な扱いが身に付くようにする。また，安全面に配慮する。</p> <p>○材料や用具を扱うことに戸惑っている子どもに対しては，一緒に切ったり，釘打ちをしたりすることなどを通して，扱い方を具体的に指導するとともに，楽しさを共有する。また，釘を抜く経験なども大切な経験であると捉えて指導する。</p> <p>○どのようにどんなことをしているかのイメージを考えることにより，一人一人が作りたいものをより膨らめて考えていくように支援していく。</p>

うわぁ。この流木，この向きで組み合わせるとこんな動物に見えるんだね。

・木材の形や組合せにより自分の表したい形を膨らめてつくる。



2

【発想・構想の能力】

・材料や自分のイメージから発想した不思議な国の動物をどのように表すかを、つくりながら考えている。

【創造的な技能】

・のこぎりや金づちを十分に使い、いろいろな表し方や、木材及び釘の組合せを工夫している。

○「なめらかな感じ」「力強い」など、材料からイメージを膨らませて製作していくことも手掛かりになることを伝え、組み合わせたり、遊ばせたりすることで自由な発想がより広がるようにする。

○思うように組み合わせることができない子どもに対しては、部分的に手本を示したり、子どもの必要感に応じた友達の見本を紹介したりする。

○作品自体の工夫だけでなく、金づちの柄の持ち方、頭から握りまでの距離、釘打ちのリズムの変化など用具の使い方の細かな変化を見取り価値付けていく。

・小グループでお互いに作品を鑑賞し合う。



1

【鑑賞の能力】

・自分や友人の作品を見ながら、木材及び釘の組合せ方や表し方のよさ、楽しさを感じ取っている。

腕が動くように釘を打ったんだね。流木の腕が筋肉みたいだよ。

○不思議な生きものの習性なども考えて作品を紹介し合うワークシートを用意する。

○作品の主題や工夫した技法を伝え合うようにする。

○鑑賞をする際に、「不思議な国の動物」「木の生かし方」「釘を生かした工夫」などの視点を具体的に示す。また、友達の見本を聞くことで、鑑賞の見方を広げる。

○平素の学校生活の中でも、作品を鑑賞することができるよう、教室内や校内の適切な場所に工夫して展示する。